

広報とは有意義な活動を多くの人に知らせること

ジェニファー・ジョーンズ
元地区ガバナー

本日は、皆さんの前でお話しすることができ誠に光栄です。まずは、あるストーリーの紹介から始めたいと思います。

数年前、私は夫のニックとともにボランティア活動をするため、小さな島を訪れました。医師だったニックは、人里離れた村まで行って診療してほしいと頼まれたのです。医師が訪れることなどめったにない村ですから、医者にかかったことのある人はほとんどいない状態でした。

私たちは今にも沈みそうな小さなボートに乗り込み、海を渡って、その村へ向かいました。海岸へ近づくと、息を呑むような光景が広がっていました。海辺に何百人もの子供たちが一列に並んでいるのが見えます。船が近づくにつれて、しだいに子供たちの姿がはっきりと見えてきました。多くは裸のまま、ボロボロのTシャツを着ている子や大人用の下着を身にまとっている子もいました。大きく突き出たおなかの子が何人もいました。いわゆるクワシオルコルと呼ばれる栄養失調の症状です。それなのに、皆、嬉しそうに無邪気に戯れていて、自分が病気であるなどとは知らない様子でした。

私たちが小さな診療所を設置すると、「メディスン・マン（呪医）」を訪ねて人が集まり、長蛇の列となりました。私の仕事は主に、通訳の助けを借りてメモを取ることです。その日は大勢の人が診療所を訪れましたが、意外なことに、多くは先進国で見られるような症状、糖尿病や高血圧などを訴えていました。

しかしその中で、別々にやってきた20代半ばの男性二人が、同じ症状を訴えたのです。ニックは、通訳を介して詳しく症状を尋ねました。二人とも、おなかを指して「熱がある」と言うのです。彼らはおなかの痛みをそう表現していました。1週間に1度か2度、食事をしたときにだけその「熱」がなくなるのだと言います。診断は必要ありませんでした。必要なのは食べ物だったのです。

皆さんを悲しませるためにこの話をしたわけではありません。体験談を聞いていただければ、行動する意欲が湧いてくるに違いないと信じているからです。現在この村には、ロータリアンをはじめとする支援者のおかげで初めて学校ができました。その学校には給食プログラムがあり、子供たちや村の人々に食事を提供しています。医師が定期的に訪問して、診察を行うようにもなりました。

広報とは、自分の体験を語ることです。

ここで、挙手していただく必要はありませんが、次の質問について考えていただきたいのです。子供の頃、物語を聞かせてもらったり、お気に入りの本を読んでもらった思い出のある方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。

その物語はいつまでも私たちの心に残っているものです。物語を聞かせるという行為こそが、広報の核心なのです。

毎年行っている募金活動のパンケーキ・セールについて話すとき、大切なのはパンケーキではありません。ニュースリリースやメディアのインタビューでは、私たちの活動の受益者、つまり私たちが集めた資金で掘った井戸のおかげできれいな水が得られるようになった人々、または身体に障害のある子供たちも楽しめるようになった公園こそが、話の焦点となります。私たちの善行を人と結びつけながら、ロータリーという絵を描いていくのです。

本日、私がお話しさせていただくのは、ロータリーにおける広報の重要性についてです。かつては、人に認めてもらうためではなく、何も語らずに善行を行うことが奨励されていました。私たちの体験を伝えることがロータリーで重要視されるようになったのは、ここ十年のことです。今ではRIの長期計画にも盛り込まれるようになりました。広報こそが成功のカギであると、シニア・リーダーが認識するようになったのです。

昨年、ビル・ゲイツがこのステージに登場したとき、彼は貴重な資金だけでなく、ロータリーに深い信頼を託してくれました。ゲイツ氏はロータリーが信用できる組織であるとお墨付き与えてくれたのです。そしてこう述べました。私はロータリーの皆さんを信頼している、皆さんがどんな活動をしているか知っている、と。彼は私たちのストーリー、ポリオのストーリーを知っていたのです。

このメッセージには、かつてないほどの大きな広報効果がありました。ゲイツ氏とメリンダ夫人は、命を救うワクチンのための資金を寄付して下さっただけではありません。撲滅活動においてロータリーが信頼のおけるリーダーであると世界に示し、私たちのキャンペーン、組織、ボランティアに息吹を吹き込んでくれたのです。世界では徐々に信頼できる団体として認識されるようになってきているとはいえ、私たちのストーリーがまだ十分伝わりきっていないのは、周知の事実です。もっと多くの人々に手を伸ばし、多くの人にロータリーに参加してもらう必要があります。

ビル・ゲイツは私たちのストーリーを知っていました。

現在では、効果的な広報を行っているクラブが成長していることが、次々と実証されています。会員増強、すなわち会員の勧誘と維持において一番よい方法が、実は広報なのです。私たちがストーリーを語れば、志を同じくする人は私たちの仲間になりたいと思うものです。ロータリーがどのような組織で、何をやっているか既に知っている人を相手に、「ロータリーに入会しませんか」と誘う方が、はるかに簡単です。

ここまでお話ししてきた中で、効果的な広報とはストーリーを語り伝えることだにご理解いただけたことと願っております。それでもまだ、自分は広報の専門家ではないのに、どうやってこれを実践したらよいのかと懸念される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

まず認識すべきことは、これが一人の仕事ではないということ。広報を行うのは会員一人ひとりの責務であり、それはロータリーの襟ピンを毎日身に付けることから始まります。私たちは皆、ロータリーを代表しているのです。

では、私たちの意義ある活動をどのように紹介すべきでしょうか。先日、弟を訪ねて、シカゴに行った時のことです。感謝の気持ちを書き留めておくための日記帳を買おうと、ある日の午後、ショッピングに出かけました。一日に3つ自分が感謝したことを書き留めるとというのが数年前から流行っていて、こうすればポジティブに考える習慣が身につく、というものでした。これは名案だと思い、私もその習慣を始めたのです。

ある素敵なお店で、「これだ」という日記帳を見つけると、私は、「これが私の感謝の日記帳になるの」と小声で夫に告げました。その後もう少し店内を見て回ってから、カウンターで支払いを済ませました。店員はカウンターの横から美しい包装紙を取り出し、その日記帳を丁寧に包みました。そしてカウンターの別の場所から、青地に金色の線模様の入った箱を取り出して日記帳を入れ、豪華なりぼんをかけて、私に差し出してくれました。

店員は言いました。「実は先ほど、この日記があなたの感謝の日記帳になると話す声が聞こえてきたので、ぜひ私のことを書いてくだされば、と思ったんですよ。店員のおかげで、買い物をもっと楽しい体験になったとでも書いていただければ嬉しいです」実際に、私が日記帳の一番始めにこの店員のことを記したのは言うまでもありません。

では、私たちが重要だと考えることをどのように紹介したらよいのでしょうか。ロータリーをより美しく見せるために、どのような包装紙で包み、特別なりぼんをかけることができるのでしょうか。これを可能にしてくれるのが広報です。すなわち、ストーリーを語ることです。

ロータリーは広報に力を入れているため、皆さんが活用できるリソースを豊富に用意しています。その一部をご紹介します。

ここ5年間に作られた一番効果的なツールは、DVD「人類のために活動します」です。これには、印刷、ラジオ、テレビ、看板広告に利用できる、大変優れた公共奉仕広告の素材が収められています。

広報素材は簡単にカスタマイズできるほか、世界のどの地域でもロータリーの一貫したイメージを伝えられる形式となっています。私たちが成功を収めるには、一貫性と継続性が非常に重要です。これがロータリーという「ブランド」を高めることにつながるのです。

このほかに、私たちが持つ素晴らしいリソースに人材があります。国際ロータリーは世界各地で広報を専門とするロータリアンに支援をお願いしました。この協議会会場に設置された広報ブースで、各地域を担当するゾーン・コーディネーターのリストをお配りしています。この公共イメージ支援グループのメンバーは皆さんと地区広報委員長を支援するために研修を受けた人たちです。広報の対象となる人々に向けてコミュニケーションを図る上での指導や支援、貴重なアドバイスを提供してくれるでしょう。

広報の対象となる人々、と申し上げましたが、ここで重要なのは、誰を対象とするかを決めることです。広報では、メディアを介したコミュニケーションだけを考えがちです。確かにこれは重要ですが、ロータリーの会員を通じたコミュニケーションも等しく大切です。何を伝えるべきかを会員が心得ていれば、私たちのメッセージが広く伝わっていくからです。

私が地区ガバナー・エレクトとして国際協議会に出席したときのことです。現在RI理事を務めるトム・ソーフィンソン氏のお話に心を打たれました。彼はドミニカ共和国とハイチでボランティア活動をした経験を語ってくださいました。両国を何度も訪れ、安全な水源を求めて活動を続けていたそうです。ある日、仲間のロータリアンが村の女性から大変重みのある言葉を聞きました。「ロータリーが井戸を掘ってくれてから、子供たちが死ぬこともなくなりました」と。

この簡潔な一言で、きれいな水がいかに重要であるかを人々は理解できます。ソーフィンソン氏は、受益者の顔が思い浮かぶようなかたちで、この問題を語ってくださいました。数字や事実を伝えようとしたのでも、井戸を掘るための支援をお願いしたのでもありません。「ロータリーが井戸を掘ってくれてから、子供たちが死ぬことがなくなった」という事実が、問題の核心を突いているのです。

皆さんの地区にはどのような人道的なストーリーがあるでしょうか。地域の地域社会でそのストーリーが与えるインパクトを考え、どのようにそれを伝えることができるでしょうか。私たちに強力なリソースがあり、これを分かち合うことができます。まだ地区広報委員長を指名していない方は、地区に戻ったらすぐに、この任務に最もふさわしいロータリアンを探し出してください。地区広報委員長は、クラブに広報委員長を指名するよう呼びかけ、クラブ委員長に研修を提供することによって、ロータリーのストーリーを広く人々に語り伝えてもらう役割を果たします。既に地区委員長を任命された方は、広報について学び始めたばかりというガバナー・エレクトの仲間、ぜひアドバイスをしてくださるようお願いいたします。

本日皆さんにお話したい最後のコンセプトは、活発な広報を行う上で、パートナーシップが大変重要な役割を果たすということです。ゲイツ財団との協力関係については先ほど少し触れましたが、これは、ロータリーという組織を発展させていく上で、いかにパートナーシップの力を利用できるかという良い例です。パートナーシップとは皆さんにとってどのような意味を持つものでしょうか。

RIの地区広報補助金が設けられた主な理由がここに 있습니다。広報においてメディアと協力するには、この補助金を利用するのが一番の方法です。世界各地の地区が、大きな成果を達成しようとパートナーシップを組む例をご覧いただきましたが、メディアと協力することで、できるだけ費用を抑えて、私たちのストーリーを伝えることができるのです。

これまでお話ししてきたコンセプトはすべて、午後の討論セッションで引き続き皆さんに検討していただくトピックです。ロータリーの広報活動は比較的新しいものですが、現在の指導者はこれを最も差し迫った大きな課題として取り組んでいます。

最後に私に深い影響を与えたストーリーを皆さんにご紹介したいと思います。わが地区はカナダと米国にまたがっているため、週に何度も国境を行き来します。国境に近づくと、警備官が待ち構えていて、入国の理由について矢継ぎ早に質問を浴びせてきます。その日はたまたま機嫌の悪い警備官に当たってしまいました。

腕組みをして、しかめっ面の入国警備官は私に行き先を尋ねました。ロータリーの会合に出席するのだと答えると、警備官の表情はさらに険しくなりました。「ロータリー？ロータリーとは何だ」と問いただします。そこでつい調子に乗って、長い説明がいいですか、短い説明がいいですかと私が聞くと、「何でもいから、説明しろ」と怒鳴られました。

ロータリーは、地元や世界で人道的奉仕に携わる120万人の会員から成る世界的な奉仕団体だと、私は話しました。警備官はまた「君はそこで何をしているんだ」と怒鳴ります。

私は自分のクラブとそのプロジェクトやプログラムのことを話しましたが、警備官はまだ物足りないようでした。続けて、きれいな水、保健と飢餓、識字率の向上に触れ、話はポリオに及びました。警備官は身を乗り出して言います。

「ポリオ？ポリオなんてなくなったじゃないか」と。ポリオは世界の多くの地域からなくなったけれど、まだ4カ国に常在しており、私たちは子供たちを1人残らず守るため、懸命に活動を続けている、と返答しました。

警備官の態度は一転し、ロータリーについてもっと知りたがっていました。話に夢中になり、質問をします。「でもエイズはどうなんだ。ロータリーはエイズについて何かやっているか」私は説明を続け、確かに多くのロータリアンがエイズをはじめ、マラリアや結核、その他多くの問題について活動していると話しました。

「世界にはそんなにひまな人がたくさんいるのか」と言う警備官に、私はこう答えました。「いいえ。多忙でも助けの手を差し伸べようと思いやる人が、世界にはたくさんいるのです」

鬼の目にも涙で、警備官は涙を流し、私の目を見て言いました。「その人たちにどうかお礼を言ってください。彼らのやっていることに感謝すると伝えてください」その時は私の目にも涙が浮かんでいました。「君のおかげでいい一日になった」と言う警備官に、「こちらこそ、ありがとうございます」とお礼を言いました。

今日はその警備官に代わり、皆さんに感謝申し上げます。これまでの活動、そしてこれから皆さんが行われる活動に、お礼申し上げます。皆さんは、ロータリーに深く心を動かされたからこそ、今日ここに座っておられるのだと思います。その皆さんがストーリーを語れば、クラブの意欲を高め、新年度に向けて志を固めてもらうことができます。

私の好きな言葉、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの名言で、私からのお話を締めくくりたいと思います。「一人ひとりが偉大な行動を起こす力を持っている。名声のためでなく、大義のために行動するのだ。人の素晴らしさとは、いかに他者のために尽くすかで決まるからである」

今こそ、私たちのストーリーを語るべきです。ロータリーが一層輝いていくときがやって来たのです。人々を偉大な行動へと導いていこうではありませんか。